

## 平成 25 年度 第 3 回 都市計画サロン 報告

日時：平成 25 年 10 月 18 日（金）

演題：「美しい景観・豊かな暮らし」

講師：唐 寅 氏

福岡アジア都市研究所 主任研究員

### 講演内容：

都市景観をテーマに、アジアの事例、アジア都市景観賞の取組み等の話題提供をいただきました。

はじめに、アジアの都市景観として、中国の事例から問題点や取組みなどをご紹介いただきました。近年中国では環境を犠牲にした経済成長から脱皮し、景観を重視する方向に意識が変化しています。特に 90 年代から本格的に始まった住宅地開発で、商品住宅を計画する際に景観設計が積極的に取り入れられてきました。2000 年代以降は、北京や上海を中心に公共空間の景観整備が開始され、05 年以降は「城市広場」や「景観大道」のような都市景観整備が全盛であったとのことでした。景観用語も変わってきており、伝統的には「風景園林」が用いられていましたが、現代では「都市景観」が用いられ、都市の主観的なイメージや総合的な美観が重視されているとのことでした。中国の都市景観に関する問題点としては、①画一的で個性が無い、②歴史的な文脈が途絶えている、③生態環境の破壊、④人に優しい視点の欠落、の 4 点をあげられました。これらを解決するために、日本の景観緑三法に注目が高まっているとのことでした。景観アセスメント（景観評価）については国に認可を求めているところとのことでした。

次に、国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）、アジア人間居住環境協会（アジアハビタット協会）、公益財団法人福岡アジア都市研究所、アジア景観デザイン学会が主催する「アジア都市景観賞」についてご紹介があり、設立までの軌跡や授賞例をご紹介いただきました。この賞の評価基準は、①地球環境に優しく共存するものであるか、

②安全で利用者に優しく持続性があるか、③地域の文化や歴史を尊重しているか、④芸術性が高いか、⑤地域の発展に寄与し他都市の模範となるか、という 5 つの観点から審査され、他都市の模範となるすぐれた成果をあげた都市、地域、大きなプロジェクト等が表彰されるとのことでした。

最後に、福岡市は成長過程にある中規模都市から成熟都市へと移行しつつある段階であるため、その取組みの動向はアジアの諸都市から注目されていると示唆されました。

### 意見交換：

会場から、アジア都市景観賞の授賞傾向について質問があり、近年では既によく知られているものより新しいもの、特に地方都市の景観を選ぶように傾向が変わってきているとのことでした。他に、中国における景観行政について関心が高まり、今後の成果に期待が膨らみました。

（文責：箕浦永子）



第 3 回都市計画サロン会場風景